

観光英語（１）：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語

福島一人

Tourism English (1) : The English Found on Signs in the Matsumoto Castle Complex Containing the Castle Keep^o Designated as a National Treasure by The Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology

Kazundo Fukushima

Abstract

The purpose of this paper is to examine the English found on signs in the Matsumoto castle complex containing the castle keep designated as a National Treasure.

According to David Thayne (2005) etc. , some English expressions on signs of vending machines and so on in Japan are different in meaning from those in Japanese. These differences in meaning cause especially serious problems in the case of historically famous constructions designated as National Treasures, considering the present time when the Japanese government stresses the importance of luring foreign tourists to Japan, and English is a global language. Also they cause serious problems for foreign learners of Japanese language, because the English signs on the same objects are thought to be parallel in meaning to the Japanese.

This paper, as a pilot study setting a limit to the Matsumoto castle complex, examines whether differences in meaning etc. on signs exist or not.

Although there are some grammatical errors on signs in Matsumoto Castle, there seem to be fewer errors than generally expected. This is probably because in the course of writing the signs, more careful attention was paid, perhaps by examining many examples or having native speakers check the English. There are, however, a lot of contradictions between the Japanese descriptions and their corresponding English translations. It will be desirable for the authorities concerned to choose their own Japanese writer and native speaking English writer and have them closely cooperate with each other in creating the signs.

1. はじめに

サイン (Thayne, David) (2005) などにも記述されているが、日本の英語案内板 (signs) の英語の中には、英米人には日本語の案内板と違った意味に解釈される表現が見られるものがある。このような表現が国宝等の案内板に存在する場合、日本政府が外国からの観光客誘致を重視しており、また、英語が「国際語」となっている今日においては重大な問題である。特に、日本語の案内板が併

設されている場合、通常、英語案内板と日本語案内板の表記が平行すると考えられることから、内容その他の相違は、特に、米[英]国人の日本語学習者に混乱を起こさせる可能性がある。国宝(National Treasures)に指定されている名所・旧跡の場合、その影響は甚大である。

そこで、まず、本稿は、国宝天守を含む松本城郭の案内板に限定して検証する。これらの案内板の英語は、城郭の天守が「国宝」に指定されていることから、文法面での誤りは少なく、また、日本語説明と矛盾する可能性は一般的に低いと推測されるが、それぞれを検証する。

尚、本稿で使用している画像はすべて、本稿執筆者が撮影したものである。2)

2. 松本城の概略

Matsumoto Castle (松本城 *Matsumoto-jō*³), also known as the "Crow Castle" (烏城 *Karasu-jo*³) because of its black exterior, is one of [Japan's](#) premier historic [castles](#).^[1] It is located in the city of [Matsumoto](#), in [Nagano Prefecture](#) and is within easy reach of [Tokyo](#) by road or rail.

The [keep](#) (tenshukaku), which was completed in the late 16th century, maintains its original wooden interiors and external stonework. It is listed as a [National Treasure of Japan](#).^[1]

Matsumoto Castle is a flatland castle (*hirajiro*) because it is not built on a hilltop or amid rivers, but on a plain.^[1] Its complete defences would have included an extensive system of inter-connecting [walls](#), [moats](#) and [gatehouses](#).

When [Toyotomi Hideyoshi](#) transferred Ieyasu to the [Kantō region](#), he placed [Ishikawa Norimasa](#) in charge of Matsumoto. Norimasa and his son Yasunaga built the tower and other parts of the castle, including the three towers: the keep and the small tower in the northwest, both begun in 1590, and the Watari Tower; the residence; the drum gate; the black gate, the *Tsukimi Yagura*, the moat, the innermost bailey, the second bailey, the third bailey,

以上、ごく一般的な Wikipedia による概略であるが、松本城は16世紀終わりに建設された、「平城」(a flatland castle)である。天主は the keep、小天主や櫓は一括して the small towers, あるいは、towers としている。

右の画像を参照いただきたい。天守を挟んで、左の前が「月見櫓」、後ろが辰巳付け櫓[辰巳付き櫓]、そして、右側には「乾小天守」、そして、右の画像では確認しにくい、乾小天守と天守は「渡り櫓」により結ばれている。

そして、これら全体で「連結複合式





天守」を構成していると言われ、一括して「国宝」に指定されている。しかし、天守を除く他の構造物については、「乾小天守」を“small northern tower”、「渡り櫓」を“roofed passage”、「辰巳付け櫓」を“southern wing”、「月見櫓」を“moon-viewing room”ともしている。しかし、他の城郭の記述を見ると、Wikipediaにおいて、城郭の細部の呼称は統一されていないと言える。

3. 松本城の案内板の英語

本章では、案内板を、3.1「一般的な案内板」、3.2「一般的な城郭の案内板」、3.3「松本城特有の事物の案内板」、3.4「その他の案内板」に分類し、検討を加える。

3.1 一般的な案内板

1



1は「松本城案内図」を“Map of Matsumoto Castle”としている。

一般に、「案内図」は“Information Map”が考えられるが、具体的な画像が表示されている場合、“Information Map of Matsumoto Castle”とするのは、文法的にはまったく問題ないにせよ、冗長な印象を与えると思われる。さらに、単に“Matsumoto Castle”でも足りるのであろう。

英語説明と日本語説明は、平行していると言える。

2



2は「国宝松本城（本丸庭園天守閣）・松本市立博物館」の観覧料金表である。

「国宝松本城（本丸庭園天守閣）・松本市立博物館」を“Matsumoto Castle - One of Japan's National Treasures・Japan Folklore Museum”としている。

「松本市立博物館」は、18の英語説明のように、“Matsumoto City Museum”とするか、“Matsumoto City [Municipal] Folklore Museum”と統一すべきであろう。

「共通観覧券」の文字の下には料金表が存在する。「観覧料金表」の意味も含めて“General Admission to Castle and Museum”としている。「公開時間 午前8時30分～午後6時まで」を“Hours of Operation: 8:30—6:00”

P.M.”、「ただし入城午後5時30分まで」を“Please enter before 5:30 P.M.”、「休日 12月29日～1月3日まで（6日間）」を“Closed：December 29th—January 3rd.”としている。

英語説明と日本語説明は、ほぼ完全に平行していると言える。

3



3は「ご案内」を“information”としている。大文字の“I”で始めるべきであろう。他の案内板、英語説明の表題も、論文の表題のように、前置詞や冠詞以外は大文字で始めることを提案する。

“Information”は、「案内所」のほかに、「ご案内」を表すことがある。3）下には内容が表示されている。

「これより有料となります（再入場はできません）」を“Admission Charged From Here. No Re entry.”としている。案内板では、ピリオドは不要と思われる。但し、疑問文の場合は、クエスチョンマークが必要である。前置詞

は小文字で始めるべきであろう。“No Re entry”については、“No Re-entry”とすべきであろう。「防犯カメラ作動中」を“Security Camera In Operation”（“In”は小文字で始めるべきである。）、「ペットの入場はご遠慮ください」を“No Pets”、その下にあり見えないが「禁煙」を“No Smoking”、としている。日本語の丁寧さにスタイルを合わせるためには、“Allowed”や“Permitted”を加えても良いのかと思われる。

英語説明と日本語説明は、ほぼ完全に平行していると言える。

4



4は別の場所に存在した案内板である。

“Security Camera in Operation”、“No Pets”、“No Smoking”共、共通している。ここでは、3とことなり、“in”と小文字で始められている。すべてこのように統一することを提案する。

但しこの案内板の表題は、禁止事項の方にむしろ重点を置いていると思えるので、“Information”よりむしろ、“Notice”あるいは“Attention”の方が適切と思われる。

英語説明と日本語説明は、ほぼ完全に平行している。と言える。

5



5はアメリカ英語からすれば、問題点がいくつか存在する。

「登閣の際には、観覧券をお見せください。」を“Please present your tickets at the entrance.”、「履物はビニール袋に入れて、各自お持ちください。」を“Put your shoes into the plastic bag provided and carry them along with you.”としている。後者については、“Put your shoes in the plastic bag provided and carry them with you.”と、“into”を“in”とし、“along”をはずすべきであろう。「階段が急なので、昇り降りには充分ご

注意ください。特に幼児・高齢の方には付き添いがついてください。」を“Watch your step, as the stairs in the castle are very steep. Children and elders should be accompanied.”、「天守閣内には便所がありませんので、庭園内の便所をご利用ください。」を“There are no rest rooms inside.”としている。しかし、“rest rooms”は「休憩所」の意味にも解される可能性があるため、“washrooms”とすることを提案する。「天守閣および庭園内は禁煙となっていますので充分ご注意ください。」を“Smoking is not permitted in the castle towers.”、「ペットの登閣はお断りします。」を“No pets are allowed to enter with you.”としている。最後の文において、“to enter with you”は不要と思われる。日本語説明の句読点、及び英語説明のピリオドは不要と思われる。

冗長な部分はあるにせよ、英語説明と日本語説明はほぼ平行していると言える。

6



6は「禁煙」を“No Smoking”「落書き厳禁」を“No Scribbles”、「飲食禁止」を“No Food or Drinks”、「お手洗いなし」を“No Washrooms”としている。しかし、これらの記述の中には、文法的な問題は無いにせよ、疑問を感じるものがある。「落書き厳禁」については、アメリカ英語からすれば、“No Graffiti”あるいはNo Scribbling”と思われる。また、禁止事項が重なっているにも拘らず、“No Washrooms”を「お手洗いなし」の英語訳として併記するのは、「トイレをしては駄目」という意味にも解釈される可能性があり奇妙である。5に合わせて“There Are No Washrooms”とすべきであろう。

7



7は「左側通行」を“Keep left”としている。表記上、“Keep Left”とすべきであろう。「天守4階」を“4th Floor of Tower”としている。29に合わせて、“Main Keep 4th Floor”とすべきであろう。「足元・頭上注意」を“Mind your step and head”としている。“Mind Your Step”、“Mind Your Head”と2文にすべきであろう。しかし、これらはイギリス英語を感じさせられる。アメリカ英語が主流である現在なら、“Watch Your Step”、“Watch Your Head”が望ましいと思われる。

英語自体については、日本語との矛盾は存在しない。

8



8について、「順路」は、一般的に“Suggested Route”が考えられるが、この案内板のように“Route”のみで足りると思われる。

また、「天守5階」を、“5th Floor of Tower”としている。「天守」を“Main Keep”に統一するならば、“Main Keep 5th Floor”とすべきであろう。

英語自体については、日本語との矛盾は存在しない。

9



7と異なり、9では、「頭上注意」を“Watch your head”としている。表記上、“Watch Your Head”と統一するべきであろう。

「段差注意」を“Beware of uneven surfaces”としている。しかし、この場合右側に“Watch Your Head”が存在するので、“Watch Your Step”、その下に“Beware of Uneven Surfaces”を併記すべきと思われる。

「左側通行」を“Keep to the left”としている。(7)に合わせて“Keep Left”とすべきであろう。

英語自体については、日本語との矛盾は存在しない。

10



10の「回縁」とは月見櫓の朱塗りの部分(「2. 松本城の概略」参照)である。

「回縁へは出ないでください」を“Don't step into a verandah”としている。“verandah”をアメリカ英語綴りの“Veranda”とすべきであろう。「回縁」は松本城の、月見櫓にしかないものであり、月見櫓でも櫓を囲んで一箇所のみなので、“the Veranda”とすべきである。また「回縁」が開放された状態なので、“Don't Step onto the Veranda”とすべきであろう。

11



11 について、「ご来城ありがとうございます」を“Thank you for visiting”、「出口」を“Exit”、「靴は外の出口ではいてください」を“Please put your shoes on at the external exit”としている。文法的には一切問題がないが、表記上、“Thank You for Visiting”、“Exit”や“Please Put Your Shoes on at the External Exit”とすべきと思われる。

英語自体については、日本語説明文との矛盾は存在しない。

3.2 一般的な城郭の案内板

12



12 について、「矢狭間・鉄砲狭間」(矢ざま・鉄砲ざま)は、すべての日本の城郭に見られる。一般的に、“embrasures”、または、それぞれ、“bow embrasures”や“gun embrasures”とすることもある。松本城の案内板では、“holes for shootig arrows”、“holes for firing muskets”と説明されていた。英語説明の表題は、“Yazama & Teppozama (Bow Embrasures & Gun Embrasures)”とすることを提案する。日本語案内板の最初の「松本城天守が築造されたのは、慶長5年(1600年)の関が原合戦以前である。」の説明が英語案内板には存在しない。日本語の案内板の方の説明が多い例である。

13



13 について、「石落」もほとんどすべての日本の城郭に見られるものである。松本城においては、特に、その優美さが特徴的である。英語の案内板では表題を“Ishiotoshi”とし、“These projecting shelves are called “Ishiotoshi”. Ishiotoshi were constructed are at intervals along the 1st floor for dropping stones on enemy who were attempting to scale the castle walls.”と説明されている。“enemy”を“enemies”とすべきである。しかし、仮に、「石落とし」という日本語をそのまま英語の案内板でも使用するのが適切と思うにせよ、“Ishiotoshi”とイタリック体にすべきであ



る。尚、「松本城では四隅のほか天守一階の中央や乾小天守・渡櫓にも石落が設けられていて、他城に比べてその数が多い。(11箇所)」の記述が英語案内板には存在しない。日本語案内板の方の説明が多い例である。「張り出した…構造」を“*These projecting shelves*”としていること、特に“*shelves*”を使用していることに、松本城特有の「こだわり」が感じられる。しかしそれならば、英語説明の表題を単に“*Ishiotoshi*”とするのではなく、“*Ishiotoshi (Stone Dropping Shelves)*”とすべきであろう。

3.3 松本城特有の事物の案内板

14



14の英語説明の部分には、文法上疑問が感じられる箇所が存在する。

“*Small side holes of pillars tell there used to be walls between these pillars.* This floor mainly used for the storage of food gun powder and weapons.” についてである。この部分は、“*Small side holes in the pillars indicate there used to be walls between them.* This floor was mainly used for the storage of food gunpowder and weapons.” とすべきであろう。「柱の小穴」に相当するものを、“*Small side holes of pillars*” は明らかな日本語を直訳したと思える文法的な

誤りであろう。“*tell*” は文法的には誤りではないが、案内板の文体には馴染まないと思われる。“*This floor mainly used...*” については、タイトル等の場合について認められる語法と思われる。14のような説明文の一部である場合、「*be* 動詞の省略」は有り得ないと思われる。また、“*gun powder*” は一語である。

日本語案内板の「この小舞穴の痕跡から考えると、中央に十文字の通路があり、2間×3間の部屋が4室あったことが分かる」に相当する英語説明は存在しない。日本語説明の方が多い例である。

15



15は「武者走り」についての記述である。英語の表題を、“*Musha-bashiri*” としている。“*Musha-bashiri (Running Warrior Passage)*” とすることを提案する。日本語の「曲線を描いている」に対応する、英文説明の下から3行目は、“*are set in arc.*” ではなく“*are set in an arc shape*” とすべきと思われる。案内板の英語の簡略化を狙ったのであろうが、一般的に、文章中では認められないと思われる。「武士が矢玉を持ってここを…」や、「この影響は2階にも及んでいる。」は、英語説明には存在しない。日本語の説明の方が多い例である。

16



16について「天守二階」の案内板の日本語説明と英語説明は、余り一致していない。16の英語説明は、“The second floor has the same dimensions with the first floor.”で始まっている。“with”は、“as”と修正すべきと思われる。

この案内板は、14の「天守一階」の案内板の“This Floor is 42 feet 6 inches from East to West and 36 feet 5 inches from North to South.”を記憶していることが前提となる。一方、日本語説明は14と同様、「東西7間、南北6間」としている。英語説明でも14と同様、“This floor is 42 feet six inches…”とすべきで

あろう。第2文は、“...and samurais stayed here in the case of emergency.”としている。“in case of emergency”と修正すべきである。「武者窓（堅格子窓）からの明かりも多く」、は、英語の案内には存在しない。日本語の説明の方が多い例である。

17



17は「武者窓と突上戸」に対応する英語説明の表題を“The Lattice Windows”としている。“Musha Mado (Warrior Windows)”とすべきである。日本語の表題は「武者窓」のみで足りよう。「突上戸」は「武者窓」の一部であるからである。

“On the second and fourth floors are lattice windows called *musha mado* or “warriors' windows”.”から始まっている。“warriors' windows”を“warrior windows”とすべきであろう。“This was useful to keep out frequent heavy winds and rain.”については、“winds”を“wind”

と修正すべきである。また、“to keep”を“in keeping”とすべきである。日本語説明の3行目の「格子は4寸から4寸5分…」から、下から3行目の「…と東側は城らしく豪快な感じを受ける。」までに対応するものは英語説明には存在しない。逆に、英語説明の“The daylight and moonlight, which streams in through the lattices, projects beautiful patterns on the floor.”に対応するものが日本語説明には存在しない。17は日本語説明と英語説明とが矛盾する部分が多い。

18



18は案内板の日本語説明の表題を「松本城鉄砲蔵」としているが、英語説明の表題に合わせて「松本城鉄砲博物館」にすべきであろう。そして英語説明の表題は“*Matsumoto-jo Teppo Hakubutsukan* (Matsumoto Castle Gun Museum)”とすることを提案する。日本語説明にもある通り、松本市に寄贈された「赤羽コレクション」を松本市立博物館の他に松本城天守2階に展示されたものであるからだ。展示されている銃の中に、当時、日本に入ってきたことのない雷管式のコルト・アーミーらしき拳銃まで存在する。文禄2年から3年、「天文12年」に対応する“Bunroku Era Year 2-3”、“Tenbun Era Year 12”を“the Bunroku Era Year 2-3”、“the Tenbun Era Year 12”とすべきであろう。「天守の厚い塗りごめの壁」を“The thick walls of the tower’s nurigome”としているが、「塗りごめ」が完全に日本語であることから、“*nurigome*”とイタリック体にするべきである。

日本語説明と英語説明は、ほぼ完全に一致していると言える。

天守を“the main tower”としているが、19の「階段」の英語説明に合わせて、“the main keep”とすべきであろう。「狭間（「ざま」、あるいは、「さま）」を“embrasures”、「松本市立博物館」を“the Matsumoto City Museum”としている。2に合わせて、“the Matsumoto City Folklore Museum”とすべきであろう。

19



19は日本語説明、英語説明共、文法面の時制上に問題が存在するように感じられる。日本語説明の4行目では、『そのため当時は「暗闇重」と呼ばれていた。』とされているが、これは、単に、『「暗闇重」と呼ばれている。』とすべきであろう。また、英語説明の4行目からは、“The lack of windows made the Main Tower appear to have…”とされているが、“*makes*”とすべきであろう。また、「階段」の案内板の2行目と共に、文章中では“the main keep”と、統一すべきである。また“…is called “Hidden Floor” or “Dark Floor””と、“The floor has two stairs…”を“The floor has two staircases…”とすべきであろう。

19の案内板は、日本語説明と英語説明とではかなりの矛盾が存在する。日本語説明の「明かりは南側千鳥破風の木連格子からわず

かに入る。」や、「外部からの遮へいが強いので…」など英語説明とかなり矛盾する。しかし、この場合、簡略・明快という案内板の観点からして、むしろ、日本語説明を英語説明に平行させるべきと思われる例である。

尚、19の下の「階段」については、日本語説明、英語説明とも、一切問題はないと思われる。

20



20は「天守四階は、三階までの各階とガラリと室内の趣きが異なっている。」を“The style of the fourth floor of is quite different from that of other rooms in the Main Tower.”としている。これは、“…that of the others”とすべきである。また、最後の「…城主の座所に当てられた場所と考えられる。」を“The enclosed space is believed to be the Lord’s Chamber.”としている。これは、“The enclosed space is believed to have been the Lord’s Chamber”とすべきであろう。

日本語説明と英語説明は、内容的にはほぼ一致していると言える。

21



21の案内板の英語説明は、16と異なり、「有事には」を正しく、“in case of emergency”としている。天守閣内部の案内板だけでも、案内板を作成する人物が異なることを示している。

最後の英語説明の“This design was useful to grasp the battle situation.”は、“This design was useful in grasping any battle situation”とすべきであろう。

最初の「…中央に3間×3間の大広間を置き…という構成である。」や最後の「うち入側隅柱4本…柱を引き起こした擦痕がある。」に対応する英語説明は存在しない。日本語説明の方が多い例である。

22



22は天守六階（最上階）の案内板である。松本城の天守閣は、5層6階、つまり、全体画像のように外観では5階、しかし、内部では6階である。

この案内板は、「松本城ロータリークラブ」により寄贈されたものである。



英語説明の、「たたみ 16 畳」の内容の“16 pieces of rush-woven *“tatami”*” は、“16 pieces of rush-woven mats or *“tatami”*” とすべきであろう。5 行目からの“Lowered from the ceiling, the Goddess of *Nijuroku-yashin* (26th night goddess of the month) is enshrined.” は、“Lowered from the ceiling, the goddess of *Nijuroku-yashin* (Goddess of the 26th night of the month) is enshrined.” とすべきであろう。また、下から 4 行目の“*I will protect the castle from fire and enemy.*” は、“*I will protect the castle from fire and enemies.*” とすべきである。

22 の案内板は、「松本城ロータリークラブ」という単一組織の寄贈であるにもかかわらず、日本語説明と英語説明が内容上ほとんど一致していない。日本語説明の上から 7 行目から始まる、「六階の床面は地上 22,1m…」以下の説明は、英語説明には存在しないし、また、英語説明の上から 5 行目から始まる、“Lowered from the ceiling, the Goddess of *Nijuroku-yashin*…” 以下の説明は、日本語説明には存在しない。

23



10 でも述べたが、“Don’t step into a verandah” は、“Don’t Step onto the Veranda” とすべきである。

23 では「月見櫓」を“Moon Viewing Tower”としている。

24

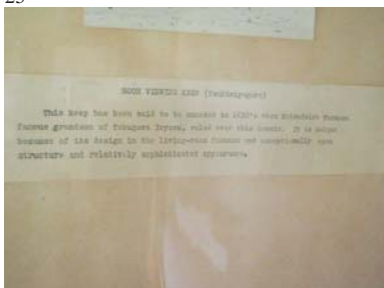


しかし、24 の表題では“Moon-Viewing Wing”、英語説明では“the Moon-Viewing Room”としている。また、25 では“Moon Viewing Keep”としている。Wikipedia に合わせて“Moon-Viewing Room”に統一すべきである。24 の英語表題を“*Tsukimi Yagura*

(Moon-Viewing Room)” とすべきであろう。

尚、24 の「一国一城令という統制の厳しい中…」などの記述は英語説明には存在しない。日本語説明のほうが多い例である。

25



しかし、25 で「櫓」を“Keep”としていることは、興味深い。「連結複合天守」と言われることにより、天守の一部分であることを作成者が意識したことにより、天守を一般的に表す“Keep”としたと思われる。

25 の英語説明最初の“This keep has been said to be annexed in 1630’s…” は、文法的に、“This keep is said to have been built as an annex in the 1630’s…” とすべきである。

だがしかし、23、24、25 の案内板で、「月見櫓」の「櫓」



26



の英語訳が“Tower”、“Wing”、“Room”、“Keep”の4例があることは、問題である。統一させるべきである。「月見櫓」については、「狭間」や「石落」などの軍事的な造作が施されていないことから、“Moon-Viewing Room”と統一すべきであろう。

26は、7と同様、「足元・頭上注意」を“Mind your step and head”としている。9と同じく、7で述べた通り、動詞を“Watch”とし、“Watch Your Step”、“Watch Your Head”と2つに分け、上下に並べるべきであろう。

「辰巳附櫓（たつみつけやぐら）」を“Tatsumi Tsuke Tower”としている。*Tatsumi Tsuke-Yagura* (Southeast Attached Tower) とすべきであろう。

27



27は英語説明の表題が26のものとは異なり、“*Tatsumitsuki-yagura*”としている。日本語説明に述べられているように、寛永年間に付け加えられたものであるから、“*Tatsumi Tsuke-Yagura* (Southeast Attached-Tower)” とすべきところである。これ

に合わせて、英語説明の最初の“This minor keep—an addition constructed circa 1636—is called *Tatsumitsuki-yagura*…”を“This tower—an addition constructed circa 1636—is called *Tatsumi Tsuke-Yagura*…” とすべきである。

日本語説明の表題「辰巳附櫓二階」は、26、また27の英語

表題に合わせて、単に、「辰巳附櫓」で足りると思われる。日本語説明の4行目からの「櫓西面の北から2本の柱は…」や、最後の文の「(花頭窓は)松本城天守には乾小天守四階にも設けられています。」は英語説明には存在しない。日本語説明のほうが多い例である。

28



28の英語説明の表題は、24や27と異なり、日本語の名称と英語訳を入れている。これまでのものに合わせて、“*Watari Yagura* (Roofed Passage)” とすべきであろう。28の英語説明では、天守を“the Main Tower”、その他の「連結複合式天守」の構成素である、「乾小天守」、「辰巳附櫓」、「月見櫓」を“minor keeps”としている。「天守」で“tower”を使用しているなら、他の構成素は“small towers”、あるいは、逆に、「天守」を“the Main Keep” とすべきであろう。「渡櫓」は「櫓」という名称



がついているが、左写真のように、1階は入り口、2階は「天守」と「乾小天守」を結ぶ単なる通路であるため“roofed passage”としている。

1階は入り口であり、2階の通路に重点がおかれているため、日本語説明の表題は「渡櫓」で足りると思われる。

28の日本語説明の「…連結複合式天守と呼ばれる。」に相当するものが英語説明には存在しない。しかし、それ以外はほぼ日本語説明と英語説明は一致していると言える。

29



29は「乾小天守1階」と“Lesser Tower 1stFloor”を上下に並べている。30も同様にすべきであろうが、案内板の英語部分は、“Inui Ko-Tenshu 1stFloor (Northwest Small Keep 1stFloor)、あるいは、英語訳の部分のみとすべきであろう。英語説明の、「小天守」を“Lesser Tower”としているのには、文法上の問題はないにせよ、一般的な使用頻度からすると抵抗が感じられる。「天守」を“keep”としたことから、“Small Keep”とすべきであろう。

30



30の英語説明の下から3行目“…and made from several types of wood…”は、“…and made of several types of wood…”とすべきである。

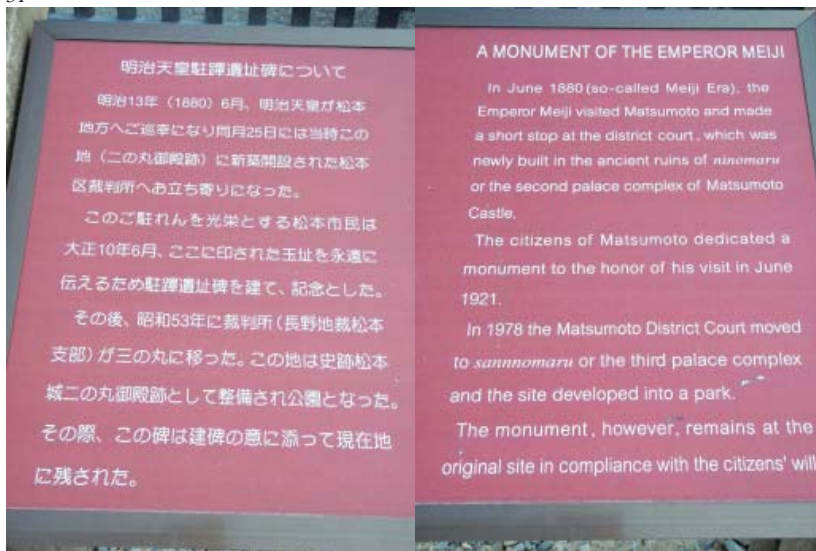
29は「乾小天主」を単に“Lesser Tower”としていた。30の英語説明では“minor keep”としている。統一されていない。英語説明の表題に(Northwest Small Keep)を加え、また英語説明を“small keep”とすべきであろう。

日本語説明の最後の「なお柱間は江戸間（6尺＝1間）である。」という記述は英語説明には存在しない。日本語の表題は、「乾小天主」のみでよいと思われる。

3.4 その他の案内板

31の日本語の表題は日本人にも難解である。英語の表題に合わせて、単に「明治天皇記念碑」でよいと思われる。英語説明の表題は、“*Meiji Tenno Kinenhi* (Monument of the Emperor Meiji)”とすべきであろう。

31



英語説明の1行目の“*In June 1880 (so -called Meiji Era)...*”は定冠詞を補い、“*In June 1880 (the so-called Meiji Era)*”とすべきであろう、日本語説明と英語説明は、文体的にもほぼ完全に一致している例と言える。

32



32について、日本語説明の二人の出身地や誕生年の記述は、英語説明には存在しない。

「小林有也先生」の功勞についての日本語説明は「…荒廢した天主を憂い、明治三十四年（1901）天主保存会を起こして修理にあたり（十二年間）天主を倒壞の危機から救った。」を英語説明は“...led a campaign in 1901 to start restoration work on the castle which by then had acquired a dangerous tilt.”としている。明治時代に天主が傾いたことは、有名な史実であるので、この部分の日本語説明は英語説明に合わせるべきである。

「市川量造先生」の功勞についての日本語説明と英語説明とは、内容が異なる。日本語説明は「…競賣されたのを憂い、幾多の困難を克服して天主を買い戻し、その保存に貢献した。」としている。英語説明は“...rescued Matsumoto castle from the auctioner's block in 1872 when like so many other ancient structures at that time it was to be demolished and its iron fittings sold.”としている。英語

説明では、「競売されなかった」ことになっている。

4. まとめ

以上、松本城の32例の案内板の日本語説明と英語説明について、次のように分類・整理が可能と思われる。「日本語説明と英語説明が、ほぼ内容が平行していると思われるもの」、「日本語説明が多いもの」、「英語説明が多いもの」、「日本語説明と英語説明との内容に矛盾箇所が存在するもの」、「英語説明に文法的誤りが存在するもの」である。

日本語説明と英語説明が、ほぼ内容が平行していると思われるもの

1、2、3、4、5、7、8、9、10、11、18、19「階段」、20、23、26、28、29、31が双方の内容がほぼ平行していると言える。

常識的には、それぞれの内容は平行していると考えられる。松本城の案内板では、一般的案内板を除いて日本語説明の方が多い例が散見された。

日本語説明が多いもの

12、13、14、15、16、21、24、27、30、32が日本語説明の方が多かった。

一般的日本人にも興味を感じられない、構造物の詳しい寸法などの描写が見られる。これは、英語説明との文字数の不均衡につながる。これら専門的詳細は、案内板にではなく、無料配布されるleafletに記述すべきであろう。

英語説明が多いもの

英語説明のほうが多い例は存在しなかった。4.2に関連するが、これは英語説明が不足しているという意味ではない。本稿執筆者には、英語説明の方に、観光客にとって「必要、かつ、充分」と思われるものがより多く見られた。

日本語説明と英語説明との内容に矛盾箇所が存在するもの

6、17、19、22、32が日本語説明と英語説明との内容に矛盾箇所が存在するものである。

19の案内板では、日本語説明、英語説明、互いに記述していないことが双方に見られた。

英語説明に文法的な誤りが存在するもの

5、10、13、14、16、17、19、20、21、23、25が英語説明に文法的な誤りが存在すると思われる例である。17、25に見られるものは「統語的」な誤りで重大である。しかし、他は句向上のものである。

総じて、予測していた数より少なかった。

松本城のそれぞれの英語案内板は、表記上の統一がなされていない。

まず、一般的案内板では、ピリオドを加えることは不要である。1から11までの案内板のうち、3以外はすべて、ピリオドを加えていない。3は他に合わせるべきである。

次に、表題について、例えば13のように、「石落」を英語の表題では“*Ishiotoshi*”としている。

しかし、これは完全な日本語であるため、“*Ishiototoshi*”と日本語のイタリック体で始め、その後に、英語説明の“(Stone Dropping Shelves)”を加える、つまり、“*Ishiototoshi (Stone Dropping Shelves)*”とする方が、日本語学習者にとっても有益と思われる。日本語に併設する英語表題は、この形式、つまり、「日本語のイタリック体ローマ字表記+ (英語訳)」に統一することを提案する。

また、字体についても、一般的案内板、その他案内板の表題は、例えば、前置詞や冠詞は小文字、その他は大文字に統一すべきである。

5. おわりに

国宝に指定された天守をもつ城郭であることによるのであろうか、松本城の案内板には作成の過程においてかなりの注意が払われたのであろう。文法面での誤りは存在するが、予測より少なかった。また、セイン(2005)の挙げたような奇妙な英語は一般的英語案内板は存在しなかった。しかし、その他の英語案内板の記述内容については、併設されている日本語の案内板との、記述面・内容面での矛盾がかなり見られた。

特に外国人の日本語学習者のためにも、可能な限りその記述内容について、日本語の案内板に平行させるべきである。特に、松本城では、23、24、25の「月見櫓」のように、ある同一物を指す英語表現が多様であることは問題である。同一城郭内において表現を統一すべきである。

市および管轄組織(一括して「当局」)の責任で案内板を作成するのであろうが、その場合、たとえ、英語に熟達しているとはいえ、日本人のみに任せるのではなく、米[英]人(ネイティブ)のチェックをいれるべきである。具体的には、当局が日本人、ネイティブ、双方に正式に依頼をし、そして当局が双方に謝礼を支払うべきである。その日本人の選択と、特にネイティブの選択については当該日本人に任せるのではなく、当局自身が行うべきである。案内板作成の過程において、当局の指導のもと、互いに親交がないことを原則とし、日本人とネイティブを緊密に連携させる必要がある。

本稿は、“pilot study”として、松本城の案内板のみを調査対象とした。次稿では、他の、国宝天守を有する、姫路城、彦根城、犬山城の案内板との比較考察を試みたい。

本稿執筆にあたり、案内板の英語のネイティブチェックをお願いいただいた、David Martin氏、文教大学准教授Cary Duval氏に感謝したい。また参考文献の情報をいただいたなど、早稲田大学名誉教授篠田義明氏、元文教大学教授長野格氏、国際短期大学専任講師原田慎一氏、元明治大学非常勤講師坂井孝彦氏、文教大学非常勤講師江連敏和氏に感謝したい。

註

1) 松本城の案内板7、8では、天守を“tower”としている。しかし、Wikipediaにもあるように、“keep”がかなり使用されるようである。本稿でも「天守(閣)」を“keep”とする。

因みに、和英辞典の市川他(1989)では、「天守」を“a castle tower”、“a keep”、“a donjon”としている。また、渡邊他編(2003)では、“a castle tower”、“a donjon”、“a keep”としている。一般書の植田一三他(2009)では、“a castle tower”、インターナショナル・インターシップ(2008)では、

“a main tower”、石井（2009）では、“a donjon”、Kinoshita 他著（2004）では、“a donjon”、ライシャワー他監修（1993）では、“a donjon”としている。Duval 氏が、“a castle tower”、“a keep”、“a donjon”、これらは全く等価に使用され、同一人物の文章中においても複数使用される可能性があるとしたことは興味深い。

2) 平成 22 年 7 月 22 日、23 日撮影。

3) 篠田（1989）、p. 32、p. 48、p. 118 参照。

参考文献

- 市川繁治郎他（1989）『新和英中辞典』第 3 版、東京：研究社
- インターナショナル・インターンシップ・プログラムズ（2008）『日本まるごと事典』第 2 版、東京：講談社インターナショナル
- 石井隆之（2009）『日本の都道府県の知識と英語を身につける』東京：ベレ書房
- キノシタ・ジュン、バレフスキー・ニコラス（2004）『最新改訂版 日本旅行ガイド』東京：講談社
- ペドラス・キャスリン&ペドラス・ロス（2007）『問題な英語』大島英美 松浦康夫訳、東京：イースト・プレス
- ライシャワー・エドウィン、加藤一郎他監修（1993）『カラーペディア 英文日本大事典』東京：講談社
- 篠田義明（1989）『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社
- セイン・デイヴィッド（Thayne David）（2005）『ニッポン人のヘン英語』東京：日本文芸社
- 植田一三、植田敏子（2009）『英語で説明する日本の文化』東京：語研
- 渡邊敏郎他編（2003）『新和英大辞典』第 5 版、東京：研究社
- Wikipedia, the free encyclopedia. “*Matsumoto Castle*.” Retrieved August 4, 2010, from <http://en.wikipedia.org/wiki/Main-Page>